

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200509		
法人名	社会福祉法人豊井会		
事業所名	グループホーム賀美邑		
所在地	埼玉県児玉郡上里町勸使河原1584		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=1174200509-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成28年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者主体、スタッフはそのパートナー」を理念としています。庭も広く、四季折々の自然を楽しむことができます上、建物も広々としており、ゆったりとした家庭的な雰囲気大切にしながら、日々のケアを行っております。

ケア目標は職員全員参加の会議を経てから設定し、統一されたケアを目指して情報共有を行っています。

これまで終末期におけるケアも行っています。ご家族にも安心して頂ける施設であるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高崎線、神保原駅から車で5分、国道17号旧中仙道に面し交通の便が良い場所にある1ユニット定員9名のグループホームである。遠くに秩父連山が一望出来、緑豊かな環境に恵まれた木造平屋建て、建物の中心には明るく広々とした居間と食堂があり、全ての居室が居間に面している。食事は栄養士により栄養計算され、3食手作りで提供しており、彩りに配慮した盛り付けを心掛けている。「入居者主体、スタッフはそのパートナー」の理念を全職員で意志統一を図り、入居者に寄り添い、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中でケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者主体、スタッフはそのパートナー」であることを理念としている。ケアに迷いが生じたときはこの理念に戻り認識を深めている。	職員がいつでも確認できるよう、玄関に掲示している。また日々の申し送りや月1回のカンファレンスの中で理念について振り返り、全職員で共有している。日常ケアの中で迷った時には理念に照らし合わせて確認し、立ち戻るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の下校見守り隊、小学校の運動会や公民館まつりに参加している。	地域の情報は運営推進会議に参加いただいている民生委員や区長より得ている。今年度は下校見守り隊や地域行事等に参加出来なかった。ホームで行う行事のそうめん流しやクリスマス会等の案内を地域に配布し、呼び掛けたが参加には至っていない。	町会や自治会等から地域活動の情報を集めたり、ホームの情報を継続的に発信し、地域との接点が増えるよう、地域活動や人々との関わりをより積極的に行う事が望まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習や保育園児の慰問を受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族に参加して頂き、意見や助言を頂いている。	2ヶ月に1度、区長、民生委員、包括支援センター職員に参加頂き開催している。ホームの現状や活動を報告し、意見や要望等を頂いている。家族には案内を出しているが、参加までには至っていない。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、有益な場となっているが、家族にも参加して頂き、現状を理解して頂き、意見、要望を伺う機会を設け、反映させることで更なるサービス向上に繋がることが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き活動報告をしている。	運営推進会議に参加頂き、その都度、入居者の様子やケアサービスの取り組みを伝えている。また認定更新の機会や困難事例の相談等、町役場担当者と連携を図っている。上里町グループホーム交流会の会場として町役場を活用させて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠も夜間以外は行っていない。	社内研修で身体拘束しないケアの実践について話し合い、拘束による弊害やリスク等を理解し、意識の共有を図っている。適切な見守り等により「拘束をしないケア」に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行うとともに、早期発見に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用意し、ご家族から希望があれば説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。また、家族からの要望は面会時や電話で気軽にできるよう日頃からコミュニケーションをとっている。	意見箱を設置し、気軽に意見、要望を受け入れられるようにしている。また、普段から何でも言って頂けるような雰囲気作りを心掛けており、面会時や電話等で様子を伝えている。出された意見、要望は職員会議で検討の上、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に意見を聞くようにしている。	申し送り時の意見交換や月1回の職員会議で意見、要望を表せる機会を設けている。2ヶ月に1度、親睦会を行う等、管理者は日常的に職員の意見や要望を聞くように努めており、話し易い雰囲気を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励し昇給したり、非常勤職員から常勤への転換、定年後の雇用継続を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加への参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域部会に参加したり、研修で交流している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時から本人のお話をじっくりと聞き、要望に沿ったサービスを展開するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同じくらい家族のお話を大切にし、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは提供できないサービスを必要とされていると判断したときは、他のサービスを紹介するなど、本人にとって何が大切な本人の立場で考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と信頼関係を築き、楽しく暮らすことができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人同様家族の思いも大切にし、希望があれば看取りケアも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方の訪問を積極的に受け入れている。	日々の関わりや会話での傾聴、家族からの情報により馴染みの人や場を把握している。家族の協力のもとで外出や外泊をする等、継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通じて自然の流れで利用者同士が関われるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問や相談があればいつでも受入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から本人の思いや希望、意向の把握に努め、職員間で情報の共有を行いながら希望に沿った暮らしができるようにしている。	日々の関わりの中で声を掛け、表情や仕草から意向の把握に努めている。申し送りノートを活用し職員全員で情報を共有している。意思疎通が困難な場合は職員会議で話し合い、どのように暮らす事が最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から生活歴などを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活経過記録、処遇日誌、排泄記録で把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議での意見や医師・看護師のアドバイス、本人・家族の希望を取り入れている。	週4日、看護師が勤務しており、職員会議で協力医からのアドバイスを含めた意見をもらい、本人、家族の意向等を反映し作成している。見直しは6ヶ月だが、変化のあった場合にはその都度、家族や関係者と話し合い柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じてカンファレンスを実施し見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に関係者と話し合いながら前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる各種教室を受け入れたり、地域で行われる作品展に出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば協力医療機関以外にも受診して頂いている。ただしその場合はご家族に受診同行をお願いしている。	入居後も希望するかかりつけ医を受診することが出来る。受診は家族対応となっている。協力医による訪問診療が週1回、希望があれば週1度の口腔ケア等、状況に応じた医療支援体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と相談しながら適切に受診できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の相談員・看護師・医師と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りケアに関する施設の方針を説明している。	入居時に重度化した場合の対応について説明し、入居者、家族と十分に話し合った上で意向に沿い、希望があれば終末期の支援を行っている。医師、職員が連携し、随時意思確認をしながら取り組んでいる。職員も看取りの指針を振り返り、考え方を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成している。また救急救命研修に毎年参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。非常災害マニュアルは現在作成中。	法人で現在、非常災害マニュアルを作成中である。今年度は避難訓練の実施には至っていない。	非常災害マニュアルを整備し、昼夜を問わず入居者が避難出来る方法を職員が身に付けると共に、地域の協力体制を築くため、呼びかけを工夫し、消防署立会いの下、地域住民の参加、夜間を想定した訓練が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかい等乱れた対応があればすぐに注意している。	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬う心を持って対応している。職員研修の中で言葉のチェック項目を設け、個々に寄り添ったケアが出来ているか振り返りを行っている。日常のケアの中で気づいた時はその都度、注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや催し物への参加時に本人の希望を伺ったり、食べ物なども好みを伺って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際には本人の希望を確認し、季節に合った清潔な身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや片づけなどできることを積極的に参加して頂いている。	栄養士により栄養計算されたメニュー表を基に、朝と夕食は同法人のケアハウス内厨房で調理された食事をホームで盛り付けている。昼食は調理専任職員が作り、盛り付け、彩りにも配慮している。職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを大切にしている。食器拭きやテーブル拭き等、出来ることはやって頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立により、美味しく食べやすい食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により排泄パターンを把握し、早めに声をかけたり誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	チェック表により習慣や排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った対応を心掛けている。羞恥心に配慮し、トイレでの排泄を目標としながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を促したり、看護師がマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週5日入浴日を設け、週2、3回入浴できるようゆとりをもって設定している。	週5回の入浴日を設け、週2～3回の入浴をして頂いている。その日の希望で入浴の順番を変更したり、健康状態や身体状況に合わせてリフト浴の対応をしている。季節の菖蒲湯や柚子湯等を提供し楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の調整、交換、布団干しを行ったり、入眠前のくつろぐ時間を設けて、気持ちよく眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を記録し、いつでも見られるようにしている。変更があった場合は全職員に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみ事をレクに取り入れたり、得意なこと(計算、漢字問題を解いたり、歌をうたうなど)を行う時間を多くとるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のよい日にはウッドデッキで外気浴を行ったり、季節ごとに花見にでかけている。	ホームを取り囲むようにウッドデッキがあり、リビング南側で外気浴をしたり、気分転換をしたりしている。また入居者の状態や希望に合わせ、散歩や近隣スーパーへの買い物、花見、ドライブ等を楽しんで頂いている。家族の協力の下、外出、外泊等の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいないが、必要に応じて事務所に預かっているお金があることを説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話したり、かかってきた電話に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や食堂は広々として自然の光が入るように設計され、快適な空間となっている。	共用空間は広々とゆったりしている。リビングから全ての居室が見渡せ、通路、トイレ等のスペースは広く、天窓からの採光で明るく快適な空間となっている。壁面には入居者と職員が制作した貼り絵等の作品等、生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の小スペースや居室に行き来しやすい作りになっており、思い思いに過ごして頂くことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具や家具を持ち込んで頂くようご家族にお願いし、本人が安心した生活を送ることができるようにしている。	居室にはベット、エアコンが備付されている。今迄の生活スタイルで暮らせるよう、思い出の物や使い慣れたお気に入りの物を持ち込んで頂き、居心地よく自分の家として過ごせるよう工夫し、支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは全てバリアフリーで段差がなく、手すりが設置してある。トイレや風呂も使いやすいようになっており、安全に生活できるようになっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域との繋がりが少ない	地域との関わりを積極的に行う	小学校の下校時の見守り隊に参加する	12ヶ月
2	4	家族会が開催されていない	運営推進会議を開催する際に、ご家族にも参加していただき意見、要望を伺う機会を設ける	案内状を送る	12ヶ月
3	35	夜間を想定しての、災害対策訓練が実施に至っていない	地域との協力体制を整え、夜間を想定しての訓練をおこなう(年／2回)	非常災害マニュアルの整備及び実施	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。